

2011年度 清教学園中・高等学校<学校関係者評価>報告

清教学園学校関係者評価委員会

これは、清教学園中・高等学校<学校評価委員会>から提出された「2011年度清教学園学校評価報告書」(自己評価)にもとづいて、当委員会(学園評議員によって構成される)が、学校運営の改善を図るために実施した「学校関係者評価」を報告するものである。

☆評価内容の概要に関して

全般的には、教育内容、生徒支援、学校運営のいずれにおいても、高い評価が得られており、前年度のアンケートにおいて比較的評価の低かった分野でも改善がなされている。これらのアンケート結果とその分析を単なる周知に終わらせず、全教員が共に意識して日々の教育活動に生かしていくことが肝要である。ただし、前年度同様、生徒と教員の評価に乖離がある項目に関しては、個々の事情をしっかりと捉えた上で、丁寧に解決を図っていく必要があるだろう。また、世間の人々の清教学園に対する評価にも謙虚に耳を傾けるため、社会の幅広い層の人たちに意見を求める機会を設けることも並行して模索して欲しい。

いずれにしても、閉鎖的になりやすい日本の学校という場で、このような形で意見や評価を求め、より良い教育環境の実現に役立てようとすることは非常に意義深いことであり、今後も更に改善を加えつつ実施し、結果のより良い生かし方を検討してもらいたい。

☆個々の評価結果等に関して

教育の成果は、たしかに進学実績という形がわかりやすい視点ではあるが、キリスト教主義に基づく人間教育を掲げる学園としては、そうした視点にとどまらず、卒業後に社会でどのような働きをし、どのような貢献をしているか、という視点も大切である。その点での評価を問うことも模索して欲しい。また、キリスト教教育の実践に関する教員の評価が比較的低いということは、個々の教員のキリスト教教育に対する理想や期待の裏返しであると取ることも出来る。現在、研修会の実施など、教職員の意識を高めていくための新しい施策も実行されているようなので、今後を期待したい。

そのほか、高校における文化祭実施への要望が強いようである。同窓会や卒業生を中心とした清教フェスタという素晴らしい行事も活用して、卒業生、保護者、教員と在校生たちが協働していく方向を進めて行ければ、清教の教育の幅が更に広がるのではないかな。

設問の仕方によっても結果が大きく変わってくる場合がある。抽象的な質問よりも、より具体的、直接的な質問を用いる方が実態把握に供すると思われる。質問の文言に関しても、更に検討を重ねてより有益なものにして欲しい。

以上